

# 第89回全日本ボクシング選手権大会



**優勝**  
全日本通算 **9度目**  
なりまつ だいすけ  
1等陸尉  
63kg 級 **成松大介**

**アジア・オセアニア**  
**五輪予選へ**  
BOXING ASIA/OCEANIA OLYMPIC QUALIFICATION TOURNAMENT

**優勝**  
全日本 **3連覇**  
もりわき ゆいと  
3等陸曹  
75kg 級 **森脇唯人**

11月21日から24日の間鹿児島県阿久根市総合体育館で第89回全日本ボクシング選手権大会が行われ、体育学校ボクシング班からオリンピック実施階級の6つの階級に9名の選手が出場した。

東京2020日本代表を演出する来年2月のアジア・オセアニア予選（中国）と同5月の世界最終予選（パリ）への出場権をかけた今大会は、報道メディアも注目する一戦となった。

各階級決勝が行われた最終日（24日）、本校から出場した4選手が白熱した試合を繰り広げ、63kg級の成松大介1等陸尉、75kg級の森脇唯人3等陸曹がそれぞれ優勝し、2月と5月のオリンピック予選への出場を決めた。

## 多彩なテクニックとパワー に高度な対応力 **Technic & Power** **成松**



国内「敵なし」の成松1尉（右）

細野恭平選手（近畿大）に対し第1ラウンドから長身と長いリーチ、持ち前のスピードとパワーを生かし積極的な攻撃で試合を進めた。終始試合を支配して判定5対0で圧勝した森脇3曹は、試合後「東京オリンピックは特に意識はしていなかった。ただ目の前の試合に勝つことに集中していた。『技』の面など、まだまだ改善しなければならないことがある。しっかり改善してアジア・オセアニア予選では優勝目指して頑張りたい。」と今後の抱負を語った。



※RSC：片方の競技者に決定的な差が付いている場合や劣勢な競技者が過度な打撃を受けているなど、レフリーが行う勝敗宣告  
プロボクシングのテクニカルノックアウト（TKO）に相当

第1ラウンドからボディブローやカウンターを軸に有効打を重ね、巧みなブロックで「パンチをもらわない」ボクシングを展開し、終始優勢に試合を進めた。結果判定5対0で圧勝し、2010年のバンタム級を皮切りにライト級5連覇、ライトウェルターで2連覇、今大会の63kg級制覇で、通算9度目の全日本制覇を遂げた。試合後成松1尉は、「リオ大会を終えてからは、1日も無駄しない日々を心がけてきた。『63kg級は俺の階級だ。誰にも渡さない』と、強い気持ちで臨んだ今大会だったが、強打のスタイルに戻し自分の持ち味でもある『どんなスタイルでも戦える対応力』を活かせると思う。まずはアジア予選通過を目標に頑張りたい。」と語った。

## 圧倒的なパワーとスピードで圧勝 **Power & Speed** **森脇**

75kg級に出場した森脇3曹が準々決勝で対戦したのは、体育学校出身で元プロの佐藤幸治選手。アマチュア時代に全日本選手権通算5連覇を果たし、プロへ転向。2004年から2012年まで活躍したベテラン選手だ。森脇3曹は持ち味のパワーとスピードで3ラウンド19秒RSC勝ちで勢いに乗った。

昨年と同カードとなった決勝では、



52kg級に出場した坪井2曹は、決勝で田中亮明選手（中京学院大学付属中京高校教員）との対戦となった。昨年のフライ級決勝と同じ対戦カードとなり坪井にとって雪辱戦となった。積極的な攻撃に徹した坪井だったが、判定2対3で借しくりベンジとはならなかった。

57kg 準決勝でリオ代表の森坂嵐選手（東京農大）に勝利し昨年の雪辱を果たした藤田2曹は、決勝で堤駿斗選手（東洋大）に判定5対0で敗れ、涙を飲んだ。

## 総合成績（メダル獲得者）

- |                          |                          |
|--------------------------|--------------------------|
| 銀 52kg 級 2等陸曹 坪井 智也（静岡県） | 銅 69kg 級 2等陸曹 秋山 佑汰（大阪府） |
| 銀 57kg 級 2等陸曹 藤田 健児（岡山県） | 銅 69kg 級 3等陸曹 金城 大明（沖縄県） |
| 銅 57kg 級 3等陸曹 村田 昂（和歌山県） | 金 75kg 級 3等陸曹 森脇 唯人（東京都） |
| 金 63kg 級 1等陸尉 成松 大介（熊本県） |                          |

